**タイトル:**

**[コラム]Google I/O 2019 レポート**

**始めに**

2019年5月8日（水）、５月9日（木）の二日間、Google社が開催する年次開発者向け会議Google I/O 2019が開催されました。今年度は「Building a more helpful Google for everyone.（すべての人々のためにより役立つGoogleを構築する）」をテーマにしており、ユーザ目線での「使いやすさ」にフォーカスした内容となりました。

（ここに画像を載せる）  
今回はそんなGoogle I/Oで紹介された中でも注目を浴びた「AI」について幾つかピックアップし紹介致します。

**革新的進化を遂げたAI「Google アシスタント」**

Googleアシスタントとは、会話型のAI機能のことで、Android端末を中心に様々な場面で活用されております。Googleアシスタントは、かつて100GB程を占めており、クライアント-サーバ間の通信が必須でしたが、100GB からわずか0.5GB（約500MB）に軽量化することに成功したと報じられました。  
　軽量化した結果、ローカル毎に判断、即時返答が行えるようになり、よりユーザとのインタラクティブが高速に行えるようになりました。

**Google アシスタントがもたらしたユーザビリティ**

* **Duplexのウェブ対応でカンタン予約**

Duplexとは、昨年のGoogle I/Oで発表された、Googleアシスタントによる代理電話予約機能です。今回はそのDuplexがWeb予約に対応できるようになりました。

例えば「旅行のためにレンタカーを予約して」と伝えると、カレンダーから飛行機の到着日時、場所を見つけ出し、近くのレンタカーを予約する画面を表示してくれます。  
程度はAIが判断し、自動で入力をしてくれる他、おすすめの車種のレコメンドなどをしてくれます。あとは承認ボタンを押すだけで予約ができてしまいます。

* **画像とARでの便利な検索**  
  例えば、旅先のレストランで写真のないメニューがあったとき、Googleアシスタント機能の一つである「Googleレンズ」を活用しましょう。これは、テキストを読み取ったのち、ネット上で該当する写真を表示してくれます
* **ドライブにもGoogleを**Googleアシスタントに「Driving Mode」が追加され、運転用にUIが一新されました。AI自身がユーザ操作を予想し表示することや、操作を音声だけで完結させることができるそうです。  
  （ここに画像を載せる）

**Android 10 Q の登場とGoogleアシスタントへの恩恵**

Google I/O にて、Android新バージョンである「Android 10 Q」が発表されました。ここでも、Googleアシスタントのが活用されています。例えば、スマホに保存された動画を再生すると、スマホ単体で字幕の表示を行えます。  
また、音声認識を使えば、動画だけではなくその場の会話をリアルタイムで文字に起こし表示させることが可能となりました。

**「Building a more helpful Google for everyone.」**

　これまで幾つか紹介してきた内容は、ほんの一部です。他にも、Google検索で｢Muscle flexion（筋肉の伸縮）｣と検索したらARでわかりやすく見せてくれるようになる機能も会場を驚かせました

（ここに画像を載せる）

その他にも、身体に不自由がある方のユーザビリティ向上の取り組みも行われています。

発声に不自由がある方の音声・表情・ジェスチャーのデータを取り込んで、それぞれに合わせた発声AI｢Project Euphonia（プロジェクト・ユーフォニア）｣を発表しており、身体に障害がある人もAIを通じてより生活を豊かにする取り組みが行われています。

今までご紹介した内容に共通することは、AIを活用して、高いユーザビリティを実現したソリューションであるということです。AIは一つのテクノロジーではありますが、一人ひとりのニーズに合わせてより便利に進化する。いわば究極のパーソナライゼーションを実現できるのではないでしょうか。

下記リンクから画像もってくる

https://blog.google/products/search/helpful-new-visual-features-search-lens-io/